

## ■ 掲示板

### ■ 特別研究員-RPD (平成18・19年度採用分) 募集

一 出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップ

日本学術振興会では、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図るため特別研究員制度を実施しています。

この特別研究員制度の一環として、子育て支援や学術研究分野における男女共同参画から、優れた若手研究者が、出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰できるよう特別研究員-RPD を平成18年度より創設しました。

今回は、平成18年度と平成19年度採用分の募集を同時に行います。

申込受付期間：2006年6月5日(月)-9日(金)必着

主な留意点：

#### (1) 申請資格

- 大学院博士課程修了者等で、平成18年4月1日から遡って過去5年以内に、出産又は子の養育のため、概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した者
- ※上記要件を満たしていれば、年齢・性別は問いません。

#### (2) 採用期間

- 平成18年度採用分 平成19年1月1日～20年12月31日 (2年間)
- 平成19年度採用分
  - ①平成19年4月1日から21年3月31日 (2年間)
  - ②平成19年7月1日から21年6月30日 (2年間)
  - ③平成19年10月1日から21年9月30日 (2年間)
  - ④平成20年1月1日から21年12月31日 (2年間)

#### (3) 募集要項及び申請書様式

- 下記 HP よりダウンロードできます。

#### (4) 申請書提出方法

- 申請書は研究に従事する予定の機関を通じて本会に提出して下さい。個人から本会への直接の申請は受け付けませんのでご注意下さい。

連絡先：〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

日本学術振興会研究者養成課 特別研究員-RPD 募集担当

Tel：03-3263-1736, 5070

詳細：URL：[http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd\\_gaiyo.html](http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_gaiyo.html)

## ■ 会告

### ■ 第68回日本放射光学会評議員会議事録

日時：2005年11月26日(土) 14:00～16:00

場所：理化学研究所 東京連絡事務所 会議室

出席者：石川哲也，大隅一政，河田 洋，木下豊彦，熊谷教孝，坂田 誠，桜井健次，鈴木芳生，田中健一郎，中井 泉，難波孝夫，野田幸男(議長)，野村昌治，浜谷 望，圓山 裕，宮原恒昱，横山利彦(編集幹事)

(以上評議員)

下村 理(会長)，高田昌樹(庶務幹事)，澤 博(渉外幹事)，木村真一(行事幹事)，中川敦史(会計幹事)，清水祐子(事務局)，小川紀子(事務局)，西野三和子(事務局)

欠席者：上野信雄，宇理須恒雄，大熊春夫，柿崎明人，

上坪宏道，北村英男，古宮 聡，佐藤 繁，菅 滋正，谷口雅樹，松井純爾，松下 正，村上洋一

(審議事項)

#### 1. 新入会員の承認

高田庶務幹事より、会員の異動について報告があり、62名の入会(内、学生40名)、6名の退会(内、学生1名)、1社の賛助会員退会に関する報告があり、これを承認した。ただ

し、上記6名の退会希望者の内、継続の可能性のある者については関係者で対応し、事務局に連絡することとした。

11月21日現在の会員数内訳：正会員1,334名(内、学生会員207名)、賛助会員52社(57口)

#### 2. 先端的リング型光源計画特別委員会について

下村会長より、委員会の構成について下記の通り報告があり、これを承認した。さらに、第1回先端的リング型光源計画特別委員会(2005.10.28/東京)での議論の経緯に関する報告があり、今後の議論の進めかたについて説明があった。

委員長：雨宮慶幸(東大)

委員：朝倉清高(北大)，足立伸一(KEK)，石川哲也(理研)，籠島 靖(兵庫県立大)，神谷幸秀(KEK)，河田 洋(KEK)，木下豊彦(JASRI)，熊谷教孝(JASRI)，小杉信博(分子研)，島田賢也(広大)，高田昌樹(JASRI)，田中 均(JASRI)，中川敦史(阪大)，羽島良一(原研)，村上洋一(東北大)，若槻壮市(KEK)

オブザーバー：下村 理(会長)，澤 博(渉外幹事)，木村真一(行事幹事)

なお、第1回先端的リング型光源計画特別委員会にて協議

した結果、下記の委員の追加の提案があった。本評議員会はこれを承認した。

光源加速器：坂中章吾 (KEK), 光学系若手：雨宮健太 (東大), VUV・SX 若手：関山 明 (阪大), 産業利用：西島和三 (持田製薬), 古宮 聡 (JASRI)

### 3. 第10回学会奨励賞の選考結果と副賞について

下村会長より第10回日本放射光学会奨励賞受賞対象者選考のための学術賞等選考委員会が開催され (2005.10.14/東京), 選考の結果, 以下の3名を受賞対象者として推薦する旨の報告があった。本評議員会はこの3名に第10回日本放射光学会奨励賞を授与することを承認した。

石井賢司 (原子力研究開発機構)「共鳴非弾性 X 線散乱法による銅酸化物高温超伝導体の電子状態の研究」

初井宇記 (分子科学研究所)「高分解能軟 X 線発光分光装置の開発研究」

山崎裕史 (高輝度光科学研究センター)「回折過程における X 線コヒーレンスの伝播の研究」

また, 高田庶務幹事から, 今回から受賞者に贈られる純銀製メダルの型見本の完成版の提出があった。

表には学会のロゴマークと賞の回数, 名称, 受賞者名, 受賞年月日。裏はソウルリング (1974年) のデザインと1960年代の放射光スペクトル。初回は型代がかかるが, 以降はメダル代とディスプレイスタンド代で, 14万円弱の予算 (年間3個分) で収まることを確認した。

### 4. The First Meeting of Asian/Oceanic Forum for Synchrotron Radiation Research について

澤渉外幹事より Asian/Oceanic Forum (2006年11月24-25日), 場所 (KEK-PF/つくば) について報告があった。各種委員会の委員候補者, 招待講演候補者名が挙げられ, それにより会議開催の現在の準備状況を確認した。2006年3月までにはさらに詳細を詰めて, 1st サーキュラーを発送する予定である旨の説明と共に, 会議開催費用の予算案が提出された。本学会の負担額は50万円。これは他の施設などへの予算申請の為に記載する。議論の結果, 2006年度の本学会予算案には含めるが, 会議が黒字になった場合は学会に返金することを確認し, この支出を承認した。

### 5. 編集委員と年会プログラム委員の選出方法について

下村会長より編集委員と年会プログラム委員の選定, 承認等についての規程改定について提案があった。

横山編集幹事, 木村行事幹事より委員会規程における不明確な点について説明があり, 改定案について提示があった。議論の結果, 細則に記載されている各委員会規程, 申し合わせ事項の全てを総合的に見直し, 改定案を再検討し次回の評議委員会に提出することとなった。

### 6. 協賛, 共催, 後援について

澤渉外幹事より協賛依頼3件, 共催依頼1件, 後援依頼1件, 協力名義依頼2件について報告があり, 承認された。

### 7. 名簿の Web 化の完成時期について

2005年度は会員名簿の発行年で12月までに紙製本の名簿に変わる電子名簿を公開する予定であったが, 澤渉外幹事より作業の遅れにより今年中の公開は不可能となることが報告された。そのため, 現在の作業情報と3月までの作業スケジ

ュールが提出され, 承認された。また, Web からの会員登録画面の作製も業者に依頼するため, さらに約5万円の追加出費が報告され, 承認された。

### (報告事項)

#### 1. HP の改定について

澤渉外幹事より学会ホームページについて, 新しいホームページへの移行作業の進捗状況について報告があった, 基本的な作業はほぼ完了し, 今後は会員へのより円滑な情報伝達の手段として, 整備していくことが報告された。

#### 2. 第19回年会予算案, 学会会計予算の執行状況について

中川会計幹事より第19回年会・合同シンポ (2006年1月/名古屋大学) の予算案が提出された。収入を少な目に, 支出を多めに計上したが, 収支のバランスは良いという結果が出た旨の説明があった。

また, 2005年1月~10月末締めの中間収支計算書 (18回年会決算を含む) が, 予算執行状況として報告された。決算期2ヶ月前の現在の状況から, 決算に向けてほぼ例年通りに推移している旨の説明があった。

#### 3. ニュースレターについて

澤渉外幹事より “SRN 2005, Vol. 18, p. 7-8” および “IUCr Newsletter” に第18回年会・合同シンポ (2005年鳥栖 (佐賀県) の開催記事が掲載されたことについて報告があった。

#### 4. 名古屋年会および市民講座の準備状況

木村行事幹事より現在の発表申し込み件数について, 口頭発表91件, ポスター発表261件, の報告があった。また, 企業展示は34社 (35小間), 広告は15社から申し込みがあったこと, 合同シンポへは名古屋大学と大幸財団, 市民講座へは名古屋大学と愛知県教育委員会が後援団体となっていることが報告された。年会・合同シンポと市民講座の宣伝ポスターの紹介と特別講演, 招待講演, 企画講演 (6セッション) の内容等について説明があった。

#### 5. 会誌広告の状況

高田庶務幹事より会誌への広告掲載の状況に関する報告があった。掲載件数, 掲載料は毎号殆ど変わらないことを確認した。

#### 6. 会誌のオンライン化の現状と会誌の発行状況

横山編集幹事より, 会誌のオンライン化の作業の進捗状況について, 評議員と編集委員に対するパスワード付試行運転状況について報告があった。会員向け試行運用について, 方法と開始予定時期について説明があった。試行は, 学会誌 Vol. 19, No. 1 (1月末発行) に時限的パスワードの掲載により開始の予定。また, 学会誌 Vol. 18, No. 6 (11月末発行) の編集作業の進捗状況について報告があった。トピックス4件, 実験技術1件, 新シリーズ (ビームライン光学技術シリーズ(3)) などの掲載が決まっており, 印刷作業も順調に進行している旨の説明があった。

#### 7. 次回評議員会日程の確認

第69回評議員会 2006年1月7日(土) 12:00-13:00  
名古屋大学  
第70回評議員会 2006年4月1日(土) 14:00-16:00  
理研東京連絡事務所  
第71回評議員会 2006年8月5日(土) 14:00-16:00

## ■第10回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2005年10月14日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として、3名が推薦された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記のとおり。

その選考結果を受け、第68回評議委員会にて第10回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第19回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

### ・石井賢司氏(独立行政法人 日本原子力研究開発機構)

「共鳴非弾性 X 線散乱法による銅酸化物高温超伝導体の電子状態の研究」

石井賢司氏は、共鳴非弾性 X 線散乱法(RIXS)を用いた銅酸化物高温超伝導体の研究において優れた成果を上げた。ホール注入型の  $\text{YBaCu}_3\text{O}_{7-\delta}$  について、RIXS スペクトルの運動量依存性から  $\text{CuO}_2$  面と  $\text{CuO}$  鎖のモットギャップを始めて分離観察することに成功し、鎖内の電荷移動パラメーター  $\delta$  の値が面内の値より小さいことを明らかにした。これは  $\text{CuO}$  鎖の電子状態に関する初めての知見である。電子注入型の  $\text{Nd}_{1.85}\text{Ce}_{0.15}\text{CuO}_4$  について  $\text{YBaCu}_3\text{O}_{7-\delta}$  と同様にモットギャップが残存していることを明らかにし、また、注入された電子のバンド内励起の分散関係の観察にも始めて成功し、RIXS が電子の電荷揺動に関する知見を与える有力な実験手段であることを示した。これらの知見は銅酸化物高温超伝導体の機構の解明に関わる重要な情報であり、今後、大きなインパクトを与える可能性がある。

### ・初井宇記氏(自然科学研究機構分子科学研究所)

「高分解能軟 X 線発光分光装置の開発研究」

初井宇記氏は、高分解能軟 X 線ビームラインと軟 X 線発光分光装置の開発に携わり、特に、高分解能発光分光装置の開発においては重要な貢献をした。従来の手法の延長では、軟 X 線発光分光装置の高分解能化が必要とされる検出感度と分解能の向上を同時に行うことが困難な状況にあり技術的なブレイクスルーを必要とされていた。独自のアイディアに基づいた新しい検出方式を提案するとともに、新しい要素技術の開拓に取り組み、検出効率と分解能を向上させるための有効な新しい手段を具体的に示すことに成功した。これにより、分解能を要求される実験や大強度の軟 X 線照射が問題になる有機結晶等への応用などさらなる発展を可能にした。

### ・山崎裕史氏(勸高輝度光科学研究センター)

「回折過程における X 線コヒーレンスの伝播の研究」

山崎裕史氏は完全結晶の回折過程における X 線コヒーレンスの伝播について研究し、X 線コヒーレンスの関わる X 線光学の発展に貢献した。高木-トーパン方程式を時間依存型に拡張した偏微分方程式からグリーン関数の手法を用いて時間変化する波動場を得たうえで、コヒーレンス関数の伝播の表式を導いており、独自性の高い優れた業績である。非対称反射で空間的コヒーレンスが增大するのを解析的に示すとともに、波面分割型の X 線干渉計を考案してそれを検証した。さらに、ロッキングカーブのプロファイルから X 線コヒーレンス関数を求める方法によってコヒーレンス関数の空間と時間に対する二次元的な表示を得た。こ

これらの研究成果は近い将来、X 線自由電子レーザーの利用にあたって真価を発揮するであろう。

## ■日本放射光学会第69回評議員会議事録

日時: 2006年1月7日(土) 12:00~13:00

場所: 名古屋大学 IB 電子情報館

出席者: 雨宮慶幸, 石川哲也, 太田俊明, 大熊春夫, 大柳宏之, 尾嶋正治, 木村真一(行事幹事), 小杉信博, 古宮 聡, 桜井健次, 繁政英治, 下村 理(会長), 菅 滋正, 辛 埴, 寿栄松宏仁, 関 一彦, 野田幸男(議長), 田中 均, 浜谷 望, 藤森 淳, 間瀬一彦(以上評議員) 高田昌樹(庶務幹事), 澤 博(渉外幹事), 中川敦史(会計幹事), 西野三和子(事務局)

欠席者: 上野信雄, 宇理須恒雄, 大隅一政, 佐藤 繁,

鈴木芳生, 難波孝夫, 水木純一郎, 宮原恒昌, 村上洋一

(審議事項)

### 1. 新入会員の承認

高田庶務幹事より会員異動について説明があり、第68回評議員会以降の入会者に関して承認された。入会: 正会員2名, 学生会員2名, 条件付き入会1名, 今回は退会希望者はなし。会費3年間未納のための強制退会20名に関して承認された。なお、条件付き入会の1名は学生証の提出を待って正式な承認とすることとし、3年間会費未納者については、評議員へ個別連絡による協力を要請した。

### 2. 2006年度の学会組織・事業計画

高田庶務幹事より2006年度の学会組織(会長, 幹事, 評議員, 特別委員会委員), および事業計画について提案があり、以下のように、承認された。

【編集委員会】横山利彦(委員長), 櫻井吉晴(副委員長), 青柳秀樹, 五十嵐教之, 池田 直, 伊藤和輝, 大橋治彦, 組頭広志, 坂中章吾, 澤田正博, 繁政英治, 柴田直樹, 鈴木哲, 高倉かほる, 高橋 浩, 田中 均, 平野馨一, 藤沢正美, 守 友浩, 矢橋牧名, 横谷尚陸

【渉外委員会】澤 博(委員長), 足立伸一, 宇佐美徳子, 北川 宏, 櫻井吉晴, 繁政英治, 鈴木昌世

【行事委員会】木村真一(委員長), 木村洋昭, 島田賢也, 高橋和敏, 田中 均, 羽島良一, 原 徹, 原田健太郎, 平野馨一, 間瀬一彦, 八木伸也

### 3. 2006年度の渉外活動方針

澤渉外幹事より2006年度の渉外活動方針について提案があり、これを承認した。

会員名簿の電子化と閲覧システムの立ち上げについては、セキュリティ対策を万全に行うことが評議員より要請され、澤幹事よりセキュリティ対策についての基本的な考えが提示され確認された。

### 4. 2006年度の行事活動方針

木村行事幹事より2006年度の行事活動方針について提案があり承認された。主な行事活動予定は以下のとおりである。

・第20回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(2007年1月7-9日/広島国際会議場(予定))

・The 1st Asian/Oceanic Forum for Synchrotron Radiation Research(2006年11月24-25日/KEK)

- ・市民公開講座、第3回若手ワークショップの開催

#### 5. 2006年度の編集方針

横山編集幹事より2006年度の編集方針について提案があり、これを承認した。

学会誌のオンライン化については、本日から公開が開始されたことが説明され、ユーザーIDとパスワードの掲示(次号学会誌発行後に失効する)があった。

#### 6. 2005年度決算および2006年度予算案

中川会計幹事より2005年度の決算報告があり承認された。つづいて2006年度予算案について説明があり、これを承認した。予算案について、紙製本の名簿出版について質問があり、名簿の電子化により出版を以後行わないことと、それに伴う名簿発行費の節減(年間50万円)について説明があった。

#### 7. 細則、委員会規程、申し合わせ等の改定について

下村会長より細則、委員会規程、申し合わせ等の改定について報告があり、これを承認した。

##### ○細則の改定

名簿の電子化に伴う変更、学会誌の内容については投稿規程に移動。

- ・第1章に【第4条会員の情報は会員名簿に記載し会員はこれを閲覧できる。記載内容および記載方法については評議員会の承認に基づく。】を入れる。
- ・第2章は第5条から始まり第5章第10条まで一つづつずれる。
- ・第6章は第11条から始まり、第12条は、旧第11条と12条を簡略化し、【学会誌の内容等については別途投稿規程に定める。】とする。この部分の字句表現については、幹事会で再検討することとし、学会誌の内容については、編集委員会で決めることとした。旧第13条は削除。

##### ○委員会規程

- ・全体の統一化と簡略化を図る。各委員会規程の冒頭の委員会設置については、細則第7条で規定しているので省き、目的、実行に変える。
- ・各委員会規程の最後の実施を【施行】とし、【昭和63年4月1日施行、平成18年・月・日改定】とし、右肩に入れる。
- ・編集委員、行事委員の任期については、【任期は2年目の年度末までとする。ただし、重任を妨げず、重任の任期は1年とする。】とする。

##### ○学術賞等選考委員会規程

1. は、現状に合わせて、改定前【および各種団体による学術賞の受賞候補者の選考のため】を削除する。
5. は、評議員会による受賞対象者の決定を明記。

##### ○学会奨励賞内規

旧7.~10条は「学術賞等選考委員会規程」と重複するので削除し、新たに第2条に【受賞候補者の選考は学術賞等選考委員会が行う。】と纏める。

なお、以下の2つの字句について、その訂正と統一化を図ることとした。

##### ★規定→規程

##### ★放射光科学→放射光学(定款の規定による。)

- ・年会・合同シンポ委員会の申し合わせについては、次回評

議員会で審議することとした。

- ・奨励賞受賞者への副賞のメダルが、高田庶務幹事から評議員へ披露された。

##### (報告事項)

報告は時間の都合で資料配布のみで終了した。用意した報告事項については以下のとおりである。

##### 1. 2005年度学会組織および事業報告

高田庶務幹事による2005年度の学会組織(会長、幹事、評議員、委員会委員、特別委員会委員)、および事業報告の紹介。

##### 2. 先端的リング型光源計画特別委員会報告

両宮委員長による第1回委員会での議論の経緯および第2回委員会での検討事項に関する報告。

##### (その他)

##### 1. 2006年度評議員会日程の確認

高田庶務幹事より2006年度評議員会の予定。

第70回 2006年4月1日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室(東京丸の内)

第71回 2006年8月5日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室(東京丸の内)

第72回 2006年11月4日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室(東京丸の内)

#### ■第19回(2006年)日本放射光学会総会議事録

日時:2006年1月7日(土) 17:40~18:40

場所:名古屋大学IB電子情報館

出席者:79名 委任状:115名 計:194名

定款第28条により、正会員の1/10(134名)以上の参加で総会は成立。

##### (議事)

##### 1. 議長選出

議長に野田幸男会員を選出した。

##### 2. 2006年度会長挨拶

下村会長より挨拶があり、前年度の総括と本年度の活動方針についての所信表明があった。

本年11月にKEKで開催される“The 1st Asian/Oceanic Forum for Synchrotron Radiation Research”は、これまでのアジアフォーラムの内容を施設ベースから研究ベースに変え、今後、恒常的に開催していくこととする旨の説明があった。

##### 3. 2005年度学会組織および事業報告

高田庶務幹事より2005年度の学会組織(会長、幹事、評議員、各委員会、特別委員会委員)、および事業報告について報告があった。

##### 4. 2005年度決算および2006年度予算案

中川会計幹事より2005年度の決算報告があり、これを承認した。つづいて2006年度予算案について報告がおこなわれた。

##### 5. 2006年度の学会組織および事業計画

高田庶務幹事より2006年度の学会組織(会長、幹事、評議員、各委員会、特別委員会委員)、および事業計画について報告された。

##### 6. 2006年度行事活動方針

木村行事幹事より2006年度の行事活動方針について報告された。第20回年会・合同シンポジウムの開催(2007年1月

7日-9日、広島国際会議場(予定)について説明があった。

7. 2006年度編集方針

横山編集幹事より2006年度の編集方針について報告された。学会誌のオンライン化が整備され、本日から公開されている旨の説明があった。

8. 2006年度渉外活動方針

澤渉外幹事より2006年度の渉外活動方針について報告された。Asian/Oceanic Forum、会員名簿の電子化、新学会ホームページについて紹介された。

9. 日本放射光学会細則、委員会規程、申し合わせ等の改定について高田庶務幹事より細則、委員会規程、申し合わせ等の改定について報告された。

10. 次世代光源計画検討特別委員会報告

下村会長より特別委員会設置の経緯、活動、および今後の活動予定について報告があった。

11. 第10回学会奨励賞授与

受賞者 石井賢司(原子力研究開発機構)  
初井宇記(分子科学研究所)  
山崎裕史(高輝度光科学研究センター)

蒲原 真澄 神戸大学 大学院総合人間科学研究科  
中川 尚人 福井大学 工学部 電気・電子工学専攻  
板倉 周介 京都大学化学研究所  
溝田 裕久 京都大学化学研究所  
堀口 大輔 京都大学化学研究所  
大橋 浩史 京都大学化学研究所  
北島 信行 榑フジタ技術センター環境研究部  
森竹 雅史 東京大学 工学部 物理工学科  
樋口 直輝 東京大学 大学院新領域創成科学研究科  
武田 佳彦 東京大学 大学院新領域創成科学研究科  
新井 邦明 東京大学物性研究所  
門野 利治 立命館大学 大学院理工学研究科  
大崎 宏紀 広島大学 大学院理学研究科  
新井 大輔 東京大学物性研究所  
加賀 浩之 名古屋大学 大学院工学研究科  
金井 謙 東京大学 大学院工学系研究科  
江見 和展 広島大学 理学部  
太田 俊二 名古屋大学 大学院量子工学専攻  
芝崎 公達 首都大学東京 大学院理学研究科  
清水 博文 京都大学 大学院工学研究科  
藤田 幸宏 大阪府立大学 大学院工学研究科  
川邑 典之 大阪府立大学 大学院工学研究科  
中島 裕一 大阪府立大学 大学院工学研究科  
三浦 雄一 広島大学 大学院理学研究科  
稲田 達 北九州市立大学 大学院国際環境工学研究科  
辻 卓也 兵庫県立大学 大学院物質理学研究科  
加茂 剛 広島大学 大学院理学研究科  
宇田川 毅志 立命館大学 大学院理工学研究科  
西山 圭 立命館大学 大学院理工学研究科  
安斎 太陽 広島大学 理学部 物理科学科  
日野めぐみ 愛媛大学 理学部  
大谷 幸子 兵庫県立大学 大学院量子物性学講座  
藤澤 信幸 立命館大学 大学院理工学研究科  
大竹 悠介 名古屋大学 大学院工学研究科  
辻 佳宏 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科  
上田 聡 姫路工業大学 工学部 応用化学科

以上62名

《退会会員》

正会員 5名, 学生会員 1名, 賛助会員 1社

第69回評議員会(2006年1月7日)で承認

《正会員入会》

飯坂 浩丈 トヨタ自動車榑  
櫻井 陽子 自然科学研究機構 分子科学研究所

以上2名

《学生会員入会》

崔 小宇 広島大学 大学院理学研究科  
蘆田 高規 名古屋大学 大学院工学研究科  
望月 崇宏 名古屋大学

以上3名

《会員数》

正会員1,337名(内学生209名) 賛助会員52社(57口)

■会員異動

第68回評議員会(2005年11月26日)で承認

《正会員入会》

野末 佳伸 住友化学 石油化学品研究所  
奥部 真樹 東京工業大学 応用セラミックス研究所  
上杉健太郎 高輝度光科学研究センター  
林 元華 東京大学 大学院新領域創成科学研究科  
加藤 昌弘 産業技術総合研究所 計測標準研究部門  
吉村 大介 九州シンクロトロン光研究センター  
金安 達夫 分子科学研究所 極端紫外光研究施設  
丹羽 尉博 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所  
江浦 隆 スプリングエイトサービス榑  
江口 律子 理化学研究所 播磨研究所  
工藤 紀雄 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所  
岡島 由佳 日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門  
堂前 和彦 榑豊田中央研究所  
小島 雅明 高輝度光科学研究センター  
増永 啓康 高輝度光科学研究センター  
大竹 雄次 理化学研究所 播磨研究所  
大野由美子 放射線医学総合研究所重粒子医科学センター  
酒井 雅弘 分子科学研究所 極端紫外光研究施設  
和田いづみ 蛋白質構造解析コンソーシアム  
Venkatachiam Rajakannan 名古屋大学 大学院工学研究科  
西島 和三 持田製薬榑開発本部

以上21名

《学生会員入会》

大野 淳子 東京工業大学 大学院総合理工学研究科  
栗山 徹 東京大学 大学院新領域創成科学研究科  
北川 利道 立命館大学 理工学部 電子光情報工学科  
楠野 智幸 立命館大学 大学院理工学研究科  
泉 雄大 神戸大学 発達科学部 総合人間科学研究科

日本放射光学会2005年度決算書

自 2004年12月21日  
至 2005年12月20日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目	
1. 正会員会費収入	6,141,000		
2. 学生会員会費収入	285,000		
3. 賛助会員会費収入	2,850,000		
4. 購読会員会費収入	585,000		
5. 会誌広告収入	3,528,784		
6. 会誌販売収入	1,460,664	会誌収入	15,120
		別刷収入	1,445,544
7. 年会・合同シンポ収入	8,429,000	第18回年会・合同シンポジウム	8,429,000
8. 受取利息	52		
収 入 の 部 合 計			23,279,500

2. 支出の部

科 目	金 額	細 目	
1. 学会誌出版費	10,117,005	会誌印刷費	7,779,534
		別刷印刷費	508,344
		原稿料	736,000
		発送手数料・郵送料	1,093,127
2. 会員名簿製作費	619,500	Web 会員名簿製作 (初期費用)	619,500
3. 学会奨励賞副賞	600,000	第9回学会奨励賞副賞 (3名×20万円)	600,000
4. 年会・合同シンポ支出	7,626,857	開催費 (第18回年会・合同シンポ)	5,965,308
		委員会旅費 (第18回年会・合同シンポ)	855,790
		事務管理費 (第18回年会・合同シンポ)	805,759
5. 行事開催費	42,262	次世代光源公開シンポ, 若手 WA	42,262
6. 会議費	2,166,366	会場費	247,366
		旅費交通費	1,919,000
7. 通信費	600,706	電話料金・郵送料	600,706
8. 事務所維持費	132,300	事務所賃貸料	126,000
		水道・光熱費	6,300
9. 会員業務費	1,496,764	名簿管理費	413,910
		印刷費	446,512
		振込手数料・運賃	636,342
10. 会計業務費	460,000	税理士顧問料	460,000
11. 一般事務管理費	1,097,610	会計管理費	252,000
		事務管理費	845,610
12. その他事務経費	633,325	事務用品費	98,431
		消耗品費	440,854
		給料手当 (選挙開票アルバイト)	40,000
		事務局交通費	101,940
		諸雑費 (弔電)	2,100
支 出 の 部 合 計			25,642,695

3. 収支計算の部

当 期 収 支 差 額	▲2,363,195
-------------	------------

日本放射光学会2006年度予算書

自 2005年12月21日  
至 2006年12月20日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算	摘 要
1. 正会員会費収入	6,648,000	¥6,000×1,108名
2. 学生会員会費収入	374,000	¥2,000×187名
3. 賛助会員会費収入	3,500,000	¥50,000×70口(65社)
4. 購読会員会費収入	700,000	¥15,000×26口, ¥30,000×4口, ¥12,600×15口
5. 会誌広告収入	4,000,000	年間契約20社/毎号平均22社掲載/6回発行
6. 会誌販売収入	1,800,000	別刷代金, その他刊行物販売収入を含む
7. 年会・合同シンポ収入	7,847,500	第19回年会・合同シンポジウム
当期収入計	24,869,500	
前期繰越金	9,924,652	
合 計	34,794,152	

2. 支出の部

科 目	金 額	細 目
1. 学会誌出版費	10,000,000	会誌印刷費(100頁×6回・カラー頁含む ¥780,000) 別刷印刷費(¥500,000) 原稿料(¥700,000) 発送手数料・郵送料(¥1,000,000)
2. ホームページ維持費	252,000	年間維持, 管理費(¥21,000/月)
3. Web 会員名簿制作費	141,750	年間維持・管理費(基礎費用¥10,500/月) メンテナンス費(¥315/1件)
4. 学会奨励賞副賞	134,190	第10回学会奨励賞副賞(純銀製特注メダル, アクリル製スタンド×3名)
5. 年会・合同シンポ支出	8,864,667	開催費(¥7,214,667) 委員会旅費(¥850,000) 事務管理費(¥800,000)
6. 行事開催費	550,000	Asian/Oceanic Forum, 若手 WS
7. 会議費	1,300,000	会場費(¥100,000) 旅費交通費(¥1,200,000)
8. 通信費	600,000	電話料金・郵送料
9. 事務所維持費	132,300	事務所賃貸料(¥10,000/月) 水道光熱費(¥525/月)
10. 会員業務費	1,000,000	名簿管理費(¥300,000) 印刷費(¥300,000) 振込手数料・運賃(¥400,000)
11. 会計業務費	460,000	税理士顧問料
12. 一般事務管理費	1,052,000	会計管理費(¥21,000/月) 事務管理費(¥800,000)
13. その他事務経費	650,000	事務用品費(¥100,000) 消耗品費(¥400,000) 給料手当(選挙開票アルバイト¥50,000) 事務局交通費(¥100,000)
当期支出計	25,136,907	
当期収支差額	▲267,407	
次期繰越金	9,657,245	

## 日本放射光学会2006年度組織

### ■会長（任期：2005.1.1-2006.12.31）

下村 理（JASRI）

### ■幹事（任期：2005.1.1-2006.12.31）

庶務幹事 高田 昌樹（JASRI）

行事幹事 木村 真一（分子研）

編集幹事 横山 利彦（分子研）

渉外幹事 澤 博（KEK）

会計幹事 中川 敦史（阪大）

### ■評議員（任期：2006.1.1-2007.12.31）

雨宮 慶幸（東大）

太田 俊明（東大）

大柳 宏之（産総研）

尾嶋 正治（東大）

木村 真一（分子研）

小杉 信博（分子研）

繁政 英治（分子研）

下村 理（JASRI）

幸 埴（東大）

壽榮松宏仁（理研）

関 一彦（名大）

田中 均（JASRI）

藤森 淳（東大）

間瀬 一彦（KEK）

水木純一郎（原研）

（任期：2005.1.1-2006.12.31）

石川 哲也（理研）

上野 信雄（千葉大）

宇理須恒雄（分子研）

大熊 春夫（JASRI）

大隅 一政（KEK）

古宮 聡（JASRI）

桜井 健次（物材機構）

佐藤 繁（東北大）

菅 滋正（阪大）

鈴木 芳生（JASRI）

難波 孝夫（神戸大）

野田 幸男（東北大）

浜谷 望（お茶女大）

宮原 恒昱（首都大東京）

村上 洋一（東北大）

### ■行事委員（任期：2005.1.1-2006.12.31）

木村 真一（分子研） 委員長

木村 洋昭（JASRI）

島田 賢也（広大）

高橋 和敏（佐賀大）

田中 均（JASRI）

羽島 良一（原研）

原 徹（理研）

原田健太郎（KEK）

平野 馨一（KEK）

間瀬 一彦（KEK）

八木 伸也（名大）

### ■渉外委員（任期：2005.1.1-2006.12.31）

澤 博（KEK） 委員長

足立 伸一（KEK）

宇佐美徳子（KEK）

北川 宏（九大）

櫻井 吉晴（JASRI）

繁政 英治（分子研）

鈴木 昌世（JASRI）

### ■編集委員（任期：2006.1.1-2007.12.31）

池田 直（JASRI）

坂中 章吾（KEK）

櫻井 吉晴（JASRI） 副委員長

澤田 正博（広大）

高橋 浩（群馬大）

田中 均（JASRI）

守友 浩（筑波大）

横谷 尚陸（岡山大）

（任期（2005.1.1 - 2006.12.31）

横山 利彦（分子研） 委員長

青柳 秀樹（JASRI）

五十嵐教之（KEK）

伊藤 和輝（理研）

大橋 治彦（JASRI）

組頭 広志（東大）

柴田 直樹（兵庫県立大）

繁政 英治（分子研）

鈴木 哲（NTT 物性基礎研）

高倉かほる（ICU）

平野 馨一（KEK）

藤澤 正美（東大）

矢橋 牧名（JASRI）

### ■2006年度の主な事業計画

#### • 第19回総会

2006年1月7日（於：名古屋大学 IB 電子情報館）

#### • 第19回年会・放射光科学合同シンポジウム

2006年1月7日-9日（於：名古屋大学 IB 電子情報館）

#### • 第10回学会奨励賞授与

2006年1月7日（於：第19回総会）

#### • 市民公開講座（世界物理年記念事業）

「シンクロトロン光で明かす生命と宇宙」

2006年1月9日（於：名古屋大学 IB 電子情報館）

#### • 第3回次世代光源計画ワークショップ（若手WS）

2006年夏期開催予定

#### • The 1st Asian/Oceanic Forum for Synchrotron Radiation Research



- 2006年11月24日-25日 (於: KEK-PF)
- 評議員会 (年4回開催)
  - 2006年度第1回 (通算第69回) 評議員会
  - 2006年1月7日 (於: 名古屋大学 IB 電子情報館)
- 幹事会 (年4回開催)
  - 2006年度第1回幹事会
  - 2006年1月7日 (於: 名古屋大学 IB 電子情報館)
- 行事委員会 (年1回開催)
  - 2006年度第1回行事委員会
  - 2006年1月9日 (於: 名古屋大学 IB 電子情報館)
- 編集委員会 (年3回開催)
  - 2006年度第1回 (通算第76回) 編集委員会
  - 2006年3月3日 (於: 東京大学本郷キャンパス)
- 先端的リング型光源計画特別委員会  
第2回特別委員会
  - 2006年1月8日 (於: 名古屋大学 IB 電子情報館)
- 第11回学会奨励賞授賞候補者選定会議
- 次期会長・評議員選挙
  - 候補者推薦開票/2006年7月

- 本選挙開票/2006年8月
- 学会誌の定期発行 (年6回)
  - Vol/19, No. 1/2006年1月末発行
  - Vol/19, No. 2/2006年3月末発行
  - Vol/19, No. 3/2006年5月末発行
  - Vol/19, No. 4/2006年7月末発行
  - Vol/19, No. 5/2006年9月末発行
  - Vol/19, No. 6/2006年11月末発行
- オンライン会員名簿の施行
- オンライン学会誌の施行

※以下, 準備期間が2006年度内となる2007年度事業

- 第20回年会・放射光科学合同シンポジウム
  - 2006年1月12日~14日または7日~9日を予定
  - (於: 広島国際会議場, もしくは広島県産業振興会館を予定)
- 市民公開講座
  - 2006年1月
  - (於: 第20回合同シンポに併せて広島地区を予定)

## 一口メモ

### クロッカス

アヤメ科クロッカス属の秋植え球根で, 花サフランとも呼ばれている。しかし, サフランのようにおしべは長くなく, また赤くない。花の色は黄をはじめとして, 紫, 白などがある。クロッカスはアルプスの猟師の息子クロッカスが狼にさらわれ, 悲しみの涙が地に落ちて生まれた花といわれている。

3月中旬から下旬にかけて, 日本各地で関連学会が開かれますので, 研究室の成果を発表し, 出席者と意見交換出来るのは非常に有益です。さらに, 時間に余裕が出来た時に, 開催地の名所・旧跡を訪れ, 日本の歴史を学ぶことも楽しみです。私は今回, 松山での日本物理学会年会に出席しましたので, 正岡子規, 高浜虚子, 夏目漱石関連の場所を訪れました。

(No. 68, K. Ohshima)



## ■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2006年 5/19-21	ナノ学会第4回大会	京都大学 百周年記念ホール	ナノ学会第4回大会事務局 E-mail: nano2006@scphys.kyoto-u.ac.jp	19・1
5/23-26	第42回真空技術基礎講演会	大阪府立産業技術総合 研究所	日本真空協会関西支部・ 社大阪府技術協会 Tel: 0725-53-2329	19・2
5/24-26	第4回シンクロトロン放射光機器設計に 関する国際ワークショップ (MEDSI2006)	イーグレ姫路	社高輝度光科学技術センター MEDSI2006事務局 E-mail: medsi2006.spring8.or.jp/	19・1
5/28-6/3	SRI 2006	EXCO Center, Daegu (大邱), Korea	Pohang Accelerator Laboratory (PAL) E-mail: msyszk@spring8.or.jp	18・2
7/3-4	X線・中性子反射率法に関連する研究会 「埋もれた界面のX線・中性子解析に 関するワークショップ2006」	マルコーイン・新横浜	社応用物理学会「埋もれた」界面の X線・中性子解析グループ E-mail: sakurai@yuhgiri.nims.go.jp URL: http://www.nims.go.jp/xray/ref/	19・2
7/9-13	第13回小角散乱国際会議 (SAS2006-Kyoto)	京都国際会議場	E-mail: SAS2006@alloy.polym.kyoto-u.ac.jp	
7/23-28	国際鉱物学連合第19回総会学術講演会 (IMA2006-Kobe)	神戸国際会議場	URL: http://www.congre.co.jp/ ima2006/index-j.html	18・6
8/23-26	第46回真空夏季大学	伊豆網代温泉 松風荘	日本真空協会 E-mail: ofc-vs@vacuum-jp.org URL: http://www.soc.nii.ac.jp/vs/	19・2
10/15-19	第5回低エネルギー電子顕微鏡及び光電子 顕微鏡国際会議 (LEEM_PEEM-V)	イーグレ姫路	社高輝度光科学技術センター LEEM_PEEM-V事務局 E-mail: leem-peem-v@spring8.or.jp	19・1
11/7-9	第47回真空に関する連合講演会	大阪大学コンベンシ ョンセンター	日本真空協会 E-mail: ofc-vs@vacuum-jp.org URL: http://www.soc.nii.ac.jp/vs/	19・2
11/24-25	The 1st Asian/Oceanic Forum for Synchrotron Radiation Research	高エネルギー加速器研 究機構 (つくば市)	日本放射光学会 E-mail: AOF06_office@pfqst.kek.jp URL: http://pfwww.kek.jp/AsOCSR06/	19・1

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

### ■第42回真空技術基礎講演会

「実習を主にした・初級者のための真空技術基礎講習会」

主 催：日本真空協会関西支部・社大阪府技術協会

協 賛：日本放射光学会、他

後 援：大阪府立産業技術総合研究所

日 時：2006年5月23日(火)～26日(金) 9:30-17:50

会 場：大阪府立産業技術総合研究所

参加費：主催団体会員50,000円、協賛団体会員53,000円

定 員：60名58,000円

締切日：2006年5月15日(月)

連絡先：社大阪府技術協会

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1

大阪府立産業技術総合研究所内

Tel: 0725-53-2329, Fax: 0725-53-2332

### ■X線・中性子反射率法に関連する研究会

「埋もれた界面のX線・中性子解析に関するワークショップ2006」

2001年12月以来、X線・中性子反射率法に関連する研究会がほぼ毎年開催されており、今回の企画は6回目にあたります。

第2日目は国際セッションになっており、全講演・討論が英語で行われます。

主催：(財)応用物理学会

「埋もれた」界面のX線・中性子解析グループ

協賛：日本放射光学会，他

日時：2006年7月3日(月)～4日(火)

会場：マルコーイン・新横浜

(<http://www.darwin.ne.jp/hotel/yokohama/>)

参加費：無料

宿泊申込：

マルコーイン・新横浜に宿泊希望の場合は、2006年5月31日までに、下記宛に連絡して下さい。

連絡先：

物質・材料研究機構材料研究所 高輝度光解析グループ

桜井健次

Tel：029-859-2821，Fax：029-859-2801

E-mail：sakurai@yuhgiri.nims.go.jp

URL：http://www.nims.go.jp/xray/ref/

#### ■第46回真空夏季大学

日本真空協会では、真空を扱う方々が真空技術の基礎を理解し、これを正しく使い、さらには新たな技術の展開に対応できる能力を身につけることを目的として、講習会「真空夏季大学」を1960年以来、毎年開催。第46回を迎えました。

主催：日本真空協会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2006年8月23日(水)～26日(土)

会場：伊豆網代温泉 松風荘

〒413-0102 静岡県熱海市下多賀660

定員：170名

受講料：

一般79,000円，日本真空協会法人会員に属する個人及び夏季大学協賛団体会員73,000円，日本真空協会個人会員及び大学研究室員63,000円，学生会員46,000円

(いずれも、宿泊費，食費，テキスト代，消費税等を含む)

申込締切：2006年7月14日(金)

問合せ先：日本真空協会事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館306号

Tel：03-3431-4395，Fax：03-3433-5371

E-mail：ofc-vs@vacuum-jp.org

URL：http://www.soc.nii.ac.jp/vs/

#### ■第47回真空に関する連合講演会

主催：日本真空協会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2006年11月7日(火)～9日(木)

会場：大阪大学 コンベンションセンター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1

定員：350名

講演申込締切：2006年7月26日(水)

電子投稿締切：2006年9月22日(金)

問合せ先：日本真空協会事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館306号

Tel：03-3431-4395，Fax：03-3433-5371

E-mail：ofc-vs@vacuum-jp.org

URL：http://www.soc.nii.ac.jp/vs/

### ● 編集委員会からのお知らせ ●

編集委員長 横山利彦

#### \* 会誌オンラインご案内

学会事務局のWWWサーバーで会誌オンラインがご覧いただけるようになりました。

<http://www.jssrr.jp/journal/>

これに伴い前号でお知らせした暫定サイトはしばらくの後停止します。今回のユーザーIDとパスワードは

User ID: jsr192

Password: ek45fh2d

です。このユーザーIDとパスワードは、次号が発行された後に失効します。

まだ試運転段階ですので、皆様から、バグの指摘，コメントなどをいただければ幸いです。ご連絡は横山(yokoyama@ims.ac.jp)までお願いします。また、当然のことですが、会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

#### \* お詫び

編集委員会が一部の会員の皆様にご迷惑おかけしてしまったことが二件ございました。一件目は、同じ内容の記事をお二人の方に依頼してしまったことです。これは事務局メールサーバーが不調で委員会内の連絡が不行になったことに加え、委員会の確認が十分でなかったことに依りました。もう一件は、今年度の委員選出の際に、候補の方の数が定数よりかなり上回ったため、一部の方には非公式に委員を依頼してしまったにもかかわらず、委員を委嘱いたしませんでした。これも委員会内の連絡不徹底が原因でした。いずれの件に対しても委員会の連絡を密にすることで今後このような問題を起こさないようにいたします。関係者の方々にはご迷惑おかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。